

第6回 南部町地域福祉計画策定委員会 議事録

日時 令和3年2月19日（金）13時30分～15時00分

場所 南部町役場法勝寺庁舎2階大会議室

（進行：佐藤委員長）

1 開会（委員長開会あいさつ）

（佐藤）県内の新型コロナは2週間ほど感染が確認されていない状況。

今日は、昨年末に実施したパブリックコメントの結果などを考慮し、計画の最終案が提示されている。本計画は、つくったときがスタートライン。皆さんの協力をお願いしたい。

2 協議事項

（1）パブリックコメント結果について

資料に基づき、事務局より説明。

（竹川）パブリックコメントで対応できるものは対応したほうが良い。SDGsに関しては、非常に重要。この計画がSDGsの実現に貢献するものなのだとすることを、書き添えるくらいでいいと思う。

→事務局一任で、追記対応する。

（大塚）協議会に加盟していない集落があるが、その扱いについてはどのような考えか。

区長へ加入の問いかけをしているが世代が代わり、加入しようという雰囲気は盛り上がり上がらないと言われる。ぜひとも役場をあげて協力していただければと思う。

（糸田）計画内容について周知の時間も必要。できるだけ役場・社協が出かけて、加入されていないところへも何らかの機会を使い話す時間をとりたい。加入されていない地域で生じている課題を情報共有していきながら、協議会に加入されるメリットも一緒に話ができればと思う。

→賛成多数につき承認。

（2）南部町地域福祉推進計画（最終案）について

（勝部）前回までの検討委員会での協議、町長協議、パブリックコメントの結果を踏まえ、事務局で修正を行った。事前に配布しているので、お読み取り頂き承認をいただきたい。なお、冊子の製本を行う段階で軽微な修正を行う場合があるが、事務局に一任されたい。

○社会福祉協議会会員について

（垂水）社会福祉協議会の活動状況の中で、約20%は会員になっていない。これは自治会がないところの家庭なのか。それとも民間アパートに入っておられて無関心だとかそういうのが多いのか。それに対して社協で加入の努力を行っているのか。

(國本) 住民基本台帳の世帯数比となっており、施設や病院におられる世帯もカウントされている。協議会に加入していない世帯だけではなく、個人的に社協の会員になっておられない世帯や、脱退した世帯もある。集落全体で会員になっていない、まだ自治会ができていない集落も若干あるが、そこについては働きかけをしたことがある。社協のサービスを受ける希望が出たら、個別に都度対応している。

○地域福祉計画推進委員会について

(井上) 地域福祉推進委員会の位置付けと概要をもう少し追記してはどうか。

(糸田) 前回の策定委員会でも、それを踏まえたロードマップを示してほしいという意見があったが、事務局内で検討しきれていない。もう一度提案の機会をいただきたい。

○送迎サービスについて

(大塚) 協議会における介護予防活動の送迎サービスの実施について、どういう具合に進めようとしておられるのか。

(糸田) 介護予防事業の必要性の認識は、地域によって差がある。5年間の最終的な目標としてこういった活動ができるのがいいのではないかという計画だが、具体的には相談しながら進めていきたい。

○ページの追加について (アドバイザーからの意見)

(竹川) 策定委員会のメンバー及び審議内容が簡単にわかるようなものがあつたほうが良い。また、議事録は別途公開されたほうが良い。

そのほか、①地域福祉推進計画の図で共有している部分がわかりづらい。理念だけでなく、「理念・目標 (共有)」と書くと親切。②地域マップは、地域振興区単位で、具体的にサロンや地域の福祉資源がどういったものがあるのかということが一覧でわかるような表にされてはどうか。③新型コロナが全国的に大きな影響を与えている。生活保護や生活困窮者の方への支援策として非常に注視されている生活福祉資金については、令和2年度期中で参考数値として載せられないか。④生活困窮者自立支援制度の情報は、福祉課題を抱えている現状のところにとりまとめたほうが見やすいのではないか。可能であれば対応されたい。

→修正を検討する。

(國本) 生活困窮の一般相談については、極端に増えてないが、生活福祉資金の緊急資金貸付け、生活総合支援貸付けについては、昨年度に比べ倍増している。

(竹川) そういう状況を掘り起こしていくことも今後は大きな課題になってくる。そういう問題の対応もこの計画の視野に入れていくというスタンスを示す上でも重要。

→指摘箇所の修正を行う前提で、賛成多数により承認。

(3) 今後の予定について

○ロードマップについて

(糸田) もう一度策定委員会を開催し、ロードマップをお示ししたい。また、計画の進捗管

理については、引き続き策定委員の皆さまに推進委員として参画していただきたい。あらためて意向の確認をさせていただく。なお、福祉計画ができたことを、町長や社協の同席をいただきお披露目して、町民の皆さまへ発信できる場を設けたい。

(唯) 各協議会とも決算や来年度事業を計画している時期。日程がわかれば教えて欲しい。委員が発言できる新たな提案をして、意見を求める形で会を進めて欲しい。推進委員はメンバーを絞ってほしい。

(糸田) 3月中旬を予定している。早急に調整し、連絡する。

(谷口) 最終案も承認され、いったん計画をスタートしてはと思う。計画は新年度から5か年で定義づけており、ロードマップを年次ごとに確認していけばいいのではないかと感じた。

(竹川) ロードマップは随時、状況に応じて変更していかないといけない。常に実情に合わせていくということが非常に重要。進行管理の材料として、今後の推進委員会の議論の材料とする整理でよいかと思う。冊子の中には、ロードマップは盛り込まないという切り分けでいかがか。

○福祉コーディネーターについて

(山中) 福祉コーディネーターの進捗状況は。

(糸田) 各振興協議会の事務局をまわり、意見をいただいた。協議会それぞれも新たに福祉コーディネーターを置くことは時期早尚ではないかというような意見が多かった。令和3年度については町長とも協議して、1名の福祉コーディネーターの予算を議会に提案させていただく。

○地域福祉計画推進委員会について

(唯) 分析は少人数ですべきだと個人的に思う。推進・評価については、協議会に入る必要はないと思う。

(井上) 協議会ごとで条件がまったく変わり、この計画自体は地域に出るという構想がふんだんに盛り込まれているので、会長でなくても協議会から1人は(推進委員会に)出る必要がある。関係する団体からは自分の意見を言うために推進委員に出てもらおうほうがやりやすいと思う。

(谷口) 協議会は計画の関係者であり、実施団体。一方では実施するほうで、一方でまた評価する方というのはつらいと思うが、どちらかというに参加すべき。

(竹川) 推進委員会は標準的には年2回開催。計画のとくに重点事業に関して、今回南部町ではロードマップという形でお示しすることになるが、この重点課題について、具体的にどういう動きがあったのかということ、事務局のほうで事前に情報を集約して、それを一覧に起こしてみなさんに確認していただく。中間評価と年度末の評価と2回。年度末のところで達成状況がどうであったのか、うまく出来ていればA評価、できていなければD評価といった感じで客観的に進捗状況が分か

るような評価指標を設け、達成状況を皆さんと共有していく。課題があれば、何が課題でどうやったらそれを乗り越えられるというような議論をしていくというのが、推進委員会の重要なところ。また、状況に応じて計画を修正する場合が出てくる。その場合は、その計画内容の見直しも、推進委員会で責任をもっておこなうという形になる。

(遠藤) 地域ごとで、役員などがコミュニケーションをとったり意見を出したり、そういう中から、例えば「この地域はこういう特徴があるんだ」とか、その地域で作りあげて行って持って行かないと、みんな停滞してストップしてしまう。計画を読んでも、これを具体的にどのようにわたしたちが支援していくのか。活動はわかるが、それをどのように広げて行ってみんなと一緒にしていくのかということがよくわからない。福祉委員とか協議会のメンバーは、その地域で活動しやすいようにコーディネーターの人とか色々な助けをいただいて、それから持って行かないとちょっとその次が進まないのかなと思う。

(垂水) 福祉計画の策定のためには色々な立場の人が出るのはいいが、推進（の場面）でそれぞれどのような状況なのかというのは、役員などでない者はチェックしようがない。やはり、主体になっている協議会とか社協と福祉課が（が中心になるべき）。

(唯) 南部町における各種福祉団体がそれぞれの役割・立場から参加してやろうと、協議会ばかりが推進するのではなく。今の活動が手一杯であれば、できにくいことは、はっきりできにくいと言っていかないといけない。各種団体が集まっているのは、協議会だけでなく、南部町における各種団体が役割を持ってそれぞれの立場で福祉計画に取り組むという目的である。

(竹川) 老人クラブとか、あるいは地区のボランティア団体がどういう位置づけなのかは、例えば44ページの図を見ていただければ。役割として確かに協議会の名前があちこちに出てきて、たくさん色んなことを担わなければいけないというイメージが強いけれども、実際に何か活動をやっているときに、それを担うのは協議会の役員だけではなく、福祉活動部門のボランティアがそれを担っていくと。そうすると、誰が担い手になるのかということでは、その地域の判断があるけれども、例えばそこに老人クラブが入って一緒になって活動していく、民生委員も入ってこられる、地域の実情に応じてそういう連携とか協働ということが大いにありうると、そういうふうになってきた場合には、老人クラブとして協議会と連携しながら、こういう活動を担っていくという方針は出るはず。存在意義が問われている。老人クラブこれからどういうふうこれからこの世の中で活躍していくかというときに、やはり地域に貢献していくという一つの大きな方向性だと私は思う。

具体的にどう進めていくのかというときは、地区ごとにその作戦会議を開いてい

く。例えばそれを私はモデル事業としてやられてはどうかという提案をしているけれども、例えばモデル事業という形で、どこかの地区が受けてくださったら、それを担ってくださる各種団体の方も含めて、皆さんでまず、地域の現状を確認していく。そして、地域の課題は何か、この地域に何があったらいいのかっていうところの確認。そして合意をまずはしていかなければならないと思う。そのときに、やはり老人クラブなり、各種団体の方に、今一度入っていただいて、協議会と連携したら何ができるだろうか、自分たちの単独では出来ないけど協議会にお手伝いいただいたらこういうこともできるなあといった議論ができるはず。それをビジョンとしてまとめていって、地区版の様々な活動を組立てていく、これがモデル事業というふうに私は理解している。

(唯) 私も協議会1つでいいからモデル事業をつくって、そのモデル事業が令和3年度動いていって、各種団体がどう動くのかを考えていって、現況は上のほうの組織図なのだけど、下段の取り組みをどうやっていくのか、実際上の段から下の段にシフトするような体制の中でやっていく。

(竹川) おっしゃるとおりで、私はこれから持続可能な地域づくりが大事だと思っている。そうすると新しい仕事はもう受けられない。だから何をスクラップして、あるいは様々な地域組織が分離するのが果たしていいのかとか、そういうところからも議論をしていく必要があると思う。そういうところに丁寧に1個1個紐といていって、最終的に下の段の方に行くという、それを1年じっくり時間かけて議論していくというのがモデル事業だと私は理解している。それに社協・行政がしっかり入っていったら一緒になってつくっていくという形が望ましい。

(吉田) 一般町民ということで、この会議入らせていただいている。実際にやったことを評価という部分では、もしかして実行されるほうはこうやりたいとか、地域の中で実際に福祉で動いている立場からは、こんなところがやりにくいですよとか、そういうことは、もしかして動き出した評価とすれば、言えるのかなど。そういう立場であれば年に何回か。動き出したときの評価というのは、役に立てるのかなと思う。

○デマンドバスについて

(吉持) 今、巡回バスにどれぐらい人が乗っておられるのか。高齢者であったり、独居の方と認知症のある方も利用されていると思う。この4月から新しくなるのに、現在乗っておられる方たちが理解されているのか疑問に思う。事業所の中でも、要支援の方とか、要介護1の方がバスに乗って西伯病院に行かれたり、買い物とかに行かれているが、私も地域住民としてバスに乗らせてもらったが、どの程度わかっておられるのか。4月になったときに、今乗っておられる人が混乱されることはないのかなということが事業所内で話が出ている。

(糸田) 担当の企画政策課のほうでは実証実験も始めており、まだまだ周知が足りない

いうご意見もあるようだ。そういったところは伝えていくようにすると思う。その中で、地域福祉の目線では、バスに乗られるときにちょっとした声掛けがあると、もしかしたらわかりやすく乗っていただけるのかなというところが、地域で少しお手伝いできればというような流れができると、将来的にはいいかと思うので、地域に出かけていった中でご意見が出て、「じゃあどうすればいいだろう」「私だったらちょっと声かけができるよ」とか、話合いの中で出てくればいいと思うので、またご意見いただきたい。

(内藤) 福祉計画は基本的にはとても素晴らしいと思っており、これを推進していくということはとてもいいものができていのではないかとってはいるが、もう 1 度課題をきちんと整理して、協議会と社協、それから行政と、もう少し突っ込んだ話をもう 1 回して、ロードマップを作ってほしいというふうに思っている。

本当に地域の中でどういう福祉課題があるのか、その福祉課題をみんなで一緒に取り組んでいけばいいのか。その辺の役割についてもきちんと整理をする必要があると思う。これはわたしの私案だけれども、協議会は、それぞれ独自性が強く、それぞれ違う。だからまず、それぞれの地区の方から話をして、全体的に総合的に話をされるということが必要じゃないかと思う。そうしたら、計画が将来にわたって、住民の中に浸透して行って、いいまちができると思う。今が正念場、今中途半端にやったら、本当に「なんだこれ」ということになる。じっくりと。本当にいい計画が皆さんとできたので、やるにはそういう方向があるのではないか。

(竹川) 先ほど説明したように、44 ページの図を上から下におろしていくときには、丁寧な議論が必要。地区に入って行って、協議会、関係団体、そして行政、社協、専門職が一緒になって、情報共有し、合意形成をしていくことがとても大事で、そのためのファーストステップとして地域診断をすることが重要。今、事務局の方に私の方から地域診断シートの作成をお願いしている。地域のデータが網羅されていて、地域の実情がそれを見れば一目で分かる。そういう資料を持って地域に入ってくれと。それを住民の皆さんと語り合って、“いつうちの地域はどういうふうになっていくか、何が課題なんだ” っていうことを、しっかりとそこで議論し、そこから何が必要かを今一度検討して欲しいと。お願いをしている。

(西本) 計画より実働でどうするか。活動をやめて新しくするわけではなく、福祉計画もやりながら、それに上乘せしていくことで考えている。そういう中で、コーディネーターのアドバイス等、色々やっていただければ我々も動きやすい。それと、先ほど推進委員の話が出たが、推進委員は、進捗管理が役割かと思うので、協議会の会長として、例えば別の地区の進捗が遅いとか言える立場ではないと思う。自分とこだけの進捗という感じになる。

(宮脇) この計画は本当に素晴らしい計画とっていて、大変心強く思う。協議会の役割は、その地区ごとで特色がある。色んな特色を後世に引き継いでいくという大き

な役割もあり、福祉では、課題がある方を私らが一番身近で感じることができるので、行政の方々と深く強くつながりを持って、そういうものを引っ張り出して適切な活動ができるように、まずそれには地域を知ることが大事だという気がしているので、そういう形で取り組んでいきたいと思う。

(瀧山) 民生委員としては、各地区の協議会と連携をとりながら進めていく。福祉コーディネーターが新たな相談窓口として計画されているが、民生委員としても、高齢者、独居の方、色々おられて問題が複雑化しているので、そういうところをどういうふうに協働して進めていけるかと考えている。

(糸田) 課題が複雑化しているということを、民生委員は特に肌感じておられることと思う。福祉コーディネーターも交えて、これまで以上に連携を強くしていかないといけないと思っているが、地域によって課題がある、地域を知ることが1番だと。それは役場の職員も社協の職員も一緒なことだと思っているので、そこに力入れていきたい。計画は出来たが、新たに1年をかけて具体的にしていくところを考えていきたいと思うので、その工程をきちっと次回お示しできるようにしたいと思う。

(竹川) 来年度も引き続き、もしモデル事業を受けてくださるところがこの後決まれば、私もそこに足を運んでいこうかというふうに思う。引き続き、またこういう形での進捗管理にも携わらせていただき、各地区の中でのモデル事業や、様々な事業推進にも引き続き私が、例えば時々学生を連れてきて勉強させていただくなんていうことも大いにさせていただけると嬉しいなという部分もありますので、そういう形で協議会の中に入れていただくような支援を、次年度は引き続きさせていただくという形で受入れていただけますでしょうか。

(糸田) 行政としましては、引き続き先生にアドバイザーとしてお願いをする予定にしておりますので、協議会にぜひご協力いただけないかと思う。

3 閉会